



2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2019年10月31日

上場会社名 テクノデータサイエンス・エンジニアリング株式会社 上場取引所 東
 コード番号 7046 URL http://www.tdse.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 城谷 直彦
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員専務 (氏名) 浦川 健 (TEL) 03-6383-3261
 四半期報告書提出予定日 2019年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家及び個人投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の業績(2019年4月1日~2019年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	636	△1.4	4	△93.6	6	△93.8	2	△96.8
2019年3月期第2四半期	644	—	78	—	101	—	64	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2020年3月期第2四半期	0.99		—					
2019年3月期第2四半期	34.54		—					

- (注) 1. 第2四半期の業績開示については2019年3月期から行っているため、2019年3月期第2四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。
 2. 2018年11月6日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。2019年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益を算定しております。
 3. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 4. 2020年3月期第2四半期の経営成績(累計)については、2019年5月15日付で公表しました業績予想と比較し、売上高は概ね予想どおりですが、営業利益、経常利益、四半期純利益は上回っております。詳細は2019年10月24日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	1,913	1,293	67.6
2019年3月期	1,539	1,350	87.7

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 1,293百万円 2019年3月期 1,350百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2020年3月期	—	0.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	—	—

- (注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無
 2. 現時点では2020年3月期の配当予想額は未定です。

3. 2020年3月期の業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,422	5.3	79	△59.2	80	△62.0	53	△63.4	26.10

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2020年3月期2Q	2,200,000株	2019年3月期	2,200,000株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2020年3月期2Q	150,000株	2019年3月期	150,000株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2020年3月期2Q	2,050,000株	2019年3月期2Q	1,860,000株
------------	------------	------------	------------

2018年11月6日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。発行済株式数（普通株式）につきましては、2019年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注記事項等については、添付資料3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、設備投資の増加や雇用情勢の改善等により緩やかな回復基調で推移しているものの、米中間をはじめとした貿易摩擦、日韓の緊張の高まり、英国のEU離脱問題の継続などによる影響が懸念され、先行は予断を許さない状況が続いております。

一方で、情報サービス産業においては、ビッグデータ、IoT、AI等を意識したIT投資への意欲が引続き強く、その範囲は大企業から中堅・中小企業に至るまで、また業種も多岐にわたっております。

このような状況のなか、当社では蓄積された解析技術を基に、新規顧客開拓を図るとともに既存顧客の深耕による受注拡大に努めてまいりました。また、ChatBotや音声アシスタント等の対話サービスに自動応答機能を提供する対話型AI製品『Cognigy』の顧客企業への導入が始まっております。また、製品づくりのための研究開発活動を積極的に進めるため、人員等の経営資源を注いでおります。

以上のとおり取組んでまいりました結果、当第2四半期累計期間の業績につきましては、売上高は636,015千円（前年同期比1.4%減）となり、営業利益は4,980千円（同93.6%減）、経常利益は6,334千円（同93.8%減）、四半期純利益は2,039千円（同96.8%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

当第2四半期会計期間末の資産合計は、前事業年度末に比べ374,148千円増加し、1,913,740千円となりました。

(流動資産)

流動資産の残高は、前事業年度末と比べ398,406千円減少し、1,010,563千円となりました。これは主に現金及び預金が385,378千円、売掛金が13,584千円それぞれ減少し、前払費用が2,299千円増加したこと等によるものであります。

(固定資産)

固定資産の残高は、前事業年度末と比べ772,555千円増加し、903,177千円となりました。これは主に投資有価証券が754,825千円、繰延税金資産が14,758千円増加したこと等によるものであります。

② 負債

当第2四半期会計期間末の負債合計は、前事業年度末に比べ431,317千円増加し、620,611千円となりました。

(流動負債)

流動負債の残高は、前事業年度末と比べ431,317千円増加し、600,611千円となりました。これは主に短期借入金が増加し、未払法人税等が20,563千円、未払消費税等が23,250千円それぞれ減少したこと等によるものであります。

(固定負債)

固定負債の残高は、前事業年度末と比べ増減なく、20,000千円となりました。

③ 純資産

当第2四半期会計期間末の純資産合計は、前事業年度末に比べ57,168千円減少し、1,293,129千円となりました。これは主に利益剰余金が18,460千円、その他有価証券評価差額金が38,707千円減少したこと等によるものであります。

④ キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は785,161千円となり、前事業年度末1,170,539千円と比べ385,378千円減少しました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、49,164千円（前年同四半期累計期間は70,322千円の獲得）となりました。これは主に税引前四半期純利益6,273千円（前年同四半期累計期間は93,235千円）、売上債権の減少等のプラス要因、

仕入債務、未払金、その他の負債のそれぞれ減少等のマイナス要因によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、815,782千円（前年同四半期累計期間は71,972千円の使用）となりました。これは主にキーウェアソリューションズ株式会社の株式取得に伴う支出等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、479,568千円（前年同四半期累計期間は6,773千円の使用）となりました。これは主に短期借入れによる収入のプラス要因、配当金の支払額の支出のマイナス要因によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

情報サービス産業においては、国内経済の先行き不透明感の影響は想定されるものの、企業のビッグデータ、IoT、AI等のデータ活用ビジネスへの投資意欲は強く、今後も堅調に成長するものと期待しております。

当社は、成長戦略であるサブスクリプションサービス拡充にむけて、AI製品・モジュールブランドである『scorobo』の開発を集中的に進めております。具体的には、「scorobo for Infrastructure」を活用した社会インフラ領域向け劣化検知ソリューションや、「scorobo for HR-Tech」を活用した人事領域向けソリューション『HIT』など、第2四半期会計期間より領域別ソリューションの提供が開始されております。また、株式会社SKIYAKIと共同で進めている「bitfan analysis」の開発は、順調に推移しております。

また当事業年度は、2018年11月より取扱いを開始しました音声自動応答を実現するカンパセショナルAI『Cognigy』の積極的な営業展開を進めており、大企業を中心として、社内FAQや顧客対応での活用など導入が進んでおります。

業績予想につきましては、2019年10月24日付「業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,170,539	785,161
売掛金	187,702	174,117
仕掛品	238	—
貯蔵品	296	574
前渡金	30,760	29,163
前払費用	19,201	21,501
その他	231	45
流動資産合計	1,408,969	1,010,563
固定資産		
有形固定資産		
建物	35,300	35,300
減価償却累計額	△3,785	△6,309
建物（純額）	31,514	28,990
工具、器具及び備品	1,516	1,516
減価償却累計額	△657	△872
工具、器具及び備品（純額）	858	644
有形固定資産合計	32,372	29,634
無形固定資産		
ソフトウェア	2,099	1,824
ソフトウェア仮勘定	—	5,365
無形固定資産合計	2,099	7,189
投資その他の資産		
投資有価証券	—	754,825
長期前払費用	3,085	3,904
繰延税金資産	16,923	31,681
敷金及び保証金	71,737	71,737
その他	4,404	4,204
投資その他の資産合計	96,149	866,352
固定資産合計	130,621	903,177
資産合計	1,539,591	1,913,740

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	12,914	8,313
短期借入金	—	500,000
未払金	14,593	10,769
未払費用	19,482	12,774
未払法人税等	29,322	8,759
未払消費税等	30,911	7,661
前受金	47,179	45,097
預り金	14,889	7,234
流動負債合計	169,293	600,611
固定負債		
資産除去債務	20,000	20,000
固定負債合計	20,000	20,000
負債合計	189,293	620,611
純資産の部		
株主資本		
資本金	833,180	833,180
資本剰余金	279,680	279,680
利益剰余金	289,937	271,476
自己株式	△52,500	△52,500
株主資本合計	1,350,297	1,331,836
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	—	△38,707
評価・換算差額等合計	—	△38,707
純資産合計	1,350,297	1,293,129
負債純資産合計	1,539,591	1,913,740

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	644,774	636,015
売上原価	378,118	381,300
売上総利益	266,655	254,715
販売費及び一般管理費	188,350	249,734
営業利益	78,305	4,980
営業外収益		
受取利息	6	5
為替差益	—	17
共同研究収入	23,200	—
確定拠出年金返還金	—	926
その他	2,267	576
営業外収益合計	25,473	1,526
営業外費用		
支払利息	—	173
株式公開費用	2,123	—
為替差損	56	—
営業外費用合計	2,179	173
経常利益	101,599	6,334
特別利益		
保険解約返戻金	586	—
特別利益合計	586	—
特別損失		
役員退職慰労金	8,950	—
保険解約損	—	60
特別損失合計	8,950	60
税引前四半期純利益	93,235	6,273
法人税、住民税及び事業税	14,780	1,925
法人税等調整額	14,218	2,308
法人税等合計	28,998	4,233
四半期純利益	64,236	2,039

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	93,235	6,273
減価償却費	1,971	3,013
株式公開費用	2,123	—
保険解約損益 (△は益)	—	60
受取利息	△6	△5
支払利息	—	173
為替差損益 (△は益)	0	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△13,778	13,584
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△35	△39
仕入債務の増減額 (△は減少)	△3,057	△4,600
未払金の増減額 (△は減少)	△5,708	△4,727
その他の資産の増減額 (△は増加)	45,784	△1,380
その他の負債の増減額 (△は減少)	△14,175	△42,667
小計	106,353	△30,315
利息及び配当金の受取額	5	4
利息の支払額	—	△131
法人税等の支払額	△36,036	△18,721
営業活動によるキャッシュ・フロー	70,322	△49,164
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	—	△810,600
有形固定資産の取得による支出	△16,816	—
資産除去債務の履行による支出	△3,800	—
無形固定資産の取得による支出	△1,171	△5,365
敷金及び保証金の差入による支出	△49,421	—
保険積立金の積立による支出	△763	△763
保険積立金の解約による収入	—	946
投資活動によるキャッシュ・フロー	△71,972	△815,782
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	—	500,000
配当金の支払額	△4,650	△20,431
株式公開費用の支出	△2,123	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,773	479,568
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△8,423	△385,378
現金及び現金同等物の期首残高	531,766	1,170,539
現金及び現金同等物の四半期末残高	523,343	785,161

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

当社は、ビッグデータ・AIソリューション事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。